

1. 産業領域

先進モビリティを核とする自動車・水素産業領域

2. 対象エリア

カーメーカーが立地しサプライヤーも集積する久留米市、宮若市、苅田町、水素エネルギーの利活用が進む福岡市、リサイクル企業が集積する北九州市

※上記核となる区域のほか、先進モビリティの「開発・生産」「普及」「循環」の拠点の形成に応じ、県全域でクラスター化を目指す。

3. 目指す姿（目標）

自動車、IT、半導体などの産業集積を活かし、本県で開発・生産された先進的なモビリティやサービスが、脱炭素等の社会課題を世界に先んじて解決する「先進モビリティ拠点」の構築を目指す。

目指すべき目標（KGI）＜R8年度～R17年度＞

- ・官民設備投資額：累計1,040億円（R10年度は320億円）
- ・付加価値増加額：500億円（目標年度は50億円）
- ・産業人材育成数：累計5,000人（目標年度は500人）

4. 勝ち筋

- ・日産の生産移管を契機に、生産拡大や電動化・CASEに対応した強靱なサプライチェーンの実現
- ・経済安全保障に資する「GBNet福岡」の取組発展による、使用済みEVバッテリーの資源循環の確立
- ・脱炭素化に向けた大規模水素ステーション整備と水素商用モビリティ導入による「水素大動脈構想」の西の拠点の実現
- ・運転手不足や交通空白の解消に向け、バス・タクシー事業者と連携した自動運転の社会実装



5. 政策手段

（1）課題

- ・現地調達率の向上
- ・電動化や自動運転などCASEへの対応
- ・使用済みEVバッテリーの海外流出
- ・FC商用車普及に向けたインフラ整備
- ・開発・生産を担う技術者や製造スタッフの育成・確保
- ・運転手不足による公共交通の減少

（2）政策パッケージ

- ・設備投資、技術開発の支援や生産性向上・DX支援の強化
- ・CASE分野への新規参入・取引拡大等の伴走支援の強化
- ・中古EVリース事業のさらなる拡大
- ・大規模水素ステーション・水素商用モビリティに対する支援の強化
- ・高度専門人材の育成や外国人などの人材確保
- ・公道やBRTでの自動運転導入